

いちご狩り(観光農園)と直売と水稻の複合経営で経営安定!

今月はM式たよりとして、初登場のいちごの話題です。三重県度会郡玉城町勝田の(有)玉城ふれあい農園を訪問し、園芸部門責任者野口長一さんにお話を伺いました。

昭和38年、勝田地区100戸が全面協業を目指して国のパイロット事業として「勝田実行組合」がスタートし、その後変遷があり、平成3年園芸部門事業として、玉城ふれあい農園が設立され、現在いちご(1haのハウス30棟)を主体として、メロン、ぶどう、水稻などの年間ローテーション生産と店頭直売主体販売体系の複合経営で順調な経営を展開されています。いちごは、2月末から5月上旬までは、観光農園と

して「いちご狩り」実施していますが、この期間で約2万人の来場があるところまで定着してきたとのこと。4月まで大人1300円、それ以降1100円の入場料で食べ放題、持ち帰りは有料販売とのことですが、生産品はクリスマス需要などは市場出荷ですが、ほとんど、即売コーナーでの販売と、一部過剰品をジャムなどの加工食品化と、直販主体の販売体制です。これからはいちごが終わりメロン、ぶどう(巨峰)へと移り、9月には、いちごの定植へと、このように年間収穫がある、作業があるの年間就労体系を見事に実践されています。観光農園運営は、お客が固定化するのに時間がかか

る、お客と生産をあわせるのに大変などの苦労はあるが、収穫手間がかからない、お客さんの生の声が聞けるなどのメリットも多いとのこと。いちご栽培は、弊社の「だん」による水耕、ロックなどの培地利用、土利用の高床栽培など各種栽培施設を併用しそれぞれの特徴を活用した生産とされている。ちなみに水耕生産は、養液調温によって夜冷作業不要、収量伸びるなどの特徴からクリスマス用途で効果を発揮しているとのこと。品種は女峰、草姫の2種。伊勢自動車道玉城インターから3分です。お近くへお越しの節は寄られてはいかがでしょうか。

(担当 鬼頭史一)



今年の全国大会開催準備進む!

日時: 7月17日(火)午後1時~18日(水)

会場: 大分県別府市北浜「ホテル清風」

見学: 大分市農協みつば部会(みつば生産)

スエドポニック久住(植物工場)

講演: 水耕における病気対策のやり方

大阪府農林技術センター

草刈真一氏

残留農薬問題、認定農薬、養液殺菌法など

細部確定したい案内しますが、参加準備ください。